沖縄カトリック中学高等学校
学校通信

野ばら１月号

発行
沖縄カトリック中学高等学校
〒901－2215
宜野湾市真栄原３－１６－１
ＴＥＬ098-897-3300
http://www.catholic-okinawa.ed.jp/
２０１６年1月７日(木)

ゆるしの道具となりなさい

校長　夏見隆晴

新年を迎えて、大げさな言い方をすれば、これからの生き方を如何にすべきかを考えていました。というより、せっかくの正月休み、ここは心を改めるための良い機会、『聖書』を読んで今年の抱負となるようなみ言葉を探してみようと、ページを繰っていたというのが正しい言い方かもしれません。神の御子イエス・キリストの来臨の大きなテーマは、「ゆるし」であったと思い至り、冒頭の「ゆるしの道具となりなさい」の意味と、そのために何を実践すれば、神様のみ旨にそえるかを考えてみましょう。

ここで言う「ゆるす」の日本語としては、「赦す」を用い「罪・過失などをとがめだてしないです ます」（明鏡国語辞典）ということです。勿論、わたしたちは法律で定められた罪を犯すようなことは、「してはならないこと」として大方の所で認識し守っております。それ故、ここで考えようとしている「ゆるしの道具」の「ゆるし」ではありません。「神の来臨」という人類史上最大のイベントの精神は、この世に生を受けたすべての人間が考えるべき「ゆるし」のことであり、現にわたしたちは「ゆるされて」日々を生きているのです。

ところが、そんなわたしたちの日々の生活が、いかに他の人たちを「ゆるす」ということから遠いところにあるかということです。「悪いことは悪いことである」というのは、もちろん正しいことです。そして、わたしたちの大切な子どもたちが悪いことをした時には、これを罰することも確かに必要なことです。でも、わたしたちの罰は、罰のままで終わっているということはありませんか。わたしたち親や教師は、罰することには上手であっても、「ゆるす」ことには得てていないということはできないでしょうか。

「ゆるす」ということ、殊に他者を「ゆるす」ということは、思いのほか困難なことです。第一、わたしたちは罰するための言葉は必要以上にたくさん持っています。けれども、ゆるしの言葉となると貧弱であると言えないでしょうか。子どもたちは、自分はゆるされたのだと納得できなければ、次に向かって進むことができません。わたしたち親や教師は、自分の子どもや生徒たちが間違ったことをした時には、もちろんそれを正すことは必要です。でもそれ以上に必要なことは、自分はゆるされたのだと感じ取れることなのです。

ローマ教皇フランシスコは、本年を「いつくしみの特別聖年」と定められ、「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」と題する回勅を公布なされました。その中で教皇様は「わたしたちは神からすでにゆるしを受けたのですから、ゆるしの道具となりなさい、と。神が惜しみなく寛大にご自分のいつくしみの心を示してくださったことを知っているのだから、すべての人に対して寛大でありなさい、と。」教えておられます。「ゆるし」こそは、主イエス・キリストに倣うものとして、持つべき最良の道具なのです。

雪の街で想う

国語科　竹田　充

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

私は１１月から１２月にかけて、中３の授業で「旅・自然・人間について考える」という単元を行っていました。そこで、年末年始にかけて北海道・小樽へ帰省した時に見たこと、感じたことを同じテーマでいくつか述べます。

まず、「雪のあたたかさ」です。今年は例年よりかなり雪が少なく、雪かきもすくなくて楽だったと両親が言っていましたが、それでも時折降る雪は、寒さの象徴でありながらあたたかさを感じます。故郷のぬくもりとでもいうのでしょうか。大変な思い出もありますが、私が小樽に住んでいた約２０年前と変わらぬ雪の表情は何かほっとさせてくれます。

次に、「人の思い」です。雪道を歩き、冷え切った体に最高の幸せをもたらしてくれる「パンロール」を毎回食べるのが楽しみなのですが、そこの工場にあった言葉がとても印象に残りました。

朝のあいさつ・・・・・大きく、元気に。／好意持つ人は・・・・・もたれる人。
悪口よりも・・・・・ほめことば。／いやなことでも・・・・・からりと話す。
いやがることは・・・・・進んで当たろう。／
相手の立場になりきって・・・考えよう。

今も昔も変わらないことなのでしょうが、今は見失いがちなことも多いので、誰かに伝えたいとすぐに思えた言葉でした。職人の手さばきの「思い」を感じるものでした。

さらに、「人の関わり」です。小樽には昔ながらの石造倉庫がたくさんありますが、これは北陸の人が中心に始めたものであるため、東北に支店のない「北陸銀行」の支店が北海道にあるということを今更ながら知りました。小樽の老舗菓子店も北陸の人が始めたものがあるそうです。私も、沖縄にいながら地元に対して恩返しができることがあるのかもしれない、と考えることができました。

最後に、祖母が「沖縄に行きたいね」と貯金をしていたことを知りました。こう言い始めたのは私が沖縄に来ることを決める少し前だそうです。祖母は沖縄との縁を感じてくれていたのでしょうか。人の縁やつながり、人として大切なことを色々考えた帰省の旅となりました。

１月の予定

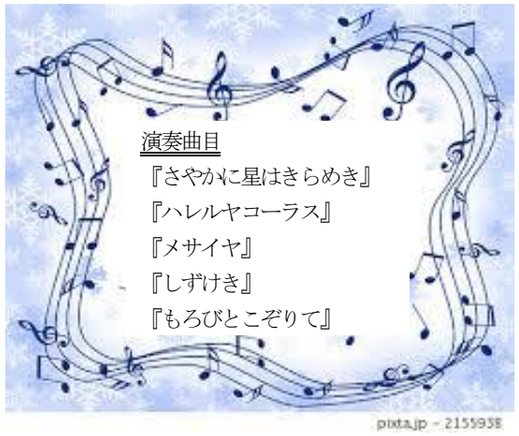
日・曜日	行　事　計　画
７日（木）	生徒集会　授業開始
８日（金）	Ｋパック高校１～３年生
９日（土）	授業　PUP⑧　Ｋパック高校３年生
１１日（月）	成人の日
１３日（水）	職員会議
１６日（土）	本校前期入試　家庭学習日　センター試験　～１７日（日）
１９日（火）	高校２年生修学旅行　～２３日（土）
２３日（土）	英検　３ｈ　中学１年生～高校１年生
２７日（水）	委員会活動③
２８日（木）	高１：総合学力③　　高２：進研記述①
３０日（土）	予餞会

12月13日(日)に宜野湾車いすマラソン大会のボランティア活動に参加しました。

毎年参加させて頂いております宜野湾市車イスマラソン大会にてボランティア活動を行いました。

今年は、中高合計47名が参加しました。活動としては開会式の運営と選手の応援を行いました。

参加した選手の皆様、お疲れさまでした。
ボランティア活動をさせて頂きありがとうございました。

12月19日(土)にクリスマスキャロルに参加しました。

今年もパレット久茂地前にてクリスマスキャロルに参加しました。中高合わせて３４名の生徒が出場しました。本学園の幼稚園、小学校の生徒達との合同合唱も行い、計５曲を披露し、クリスマスシーズンを盛り上げました。